

施工説明書

シャワートイレ KB シリーズ

CW-KB23 型 CW-KB22 型 CW-KB21 型

この度は当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。

注意

- この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
- 施工後は必ず試運転を行ってください。

施工業者さまへ

お客さまに必ず本書、取扱説明書、保証書・所有者登録のお願いをお渡しください。保証書の取扱店欄には、施工業者さまの住所、氏名、電話番号を明記のうえ、お客さまにお渡しください。

なお、保証書・所有者登録のお願いは、製品本体に貼り付けてあるか、製品本体に同梱してあります。

お渡しするときは、使用方法をご説明いただくとともに、所有者登録を行っていただきますようご説明ください。

※所有者登録の際、便フタ裏または製品本体の表示が必要となります。表示位置をお客さまに必ずお伝えください。

※定期的に点検が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

施工手順

- 1 フルオート便器洗浄ユニットの取付け
(フルオート便器洗浄ユニット付の場合)
- 2 分岐金具の取付け
- 3 本体着脱プレートの取付け
- 4 シャワートイレ本体の取付け
- 5 電源の接続
- 6 リモコンの位置決め・取付け
- 7 試運転

商品・施工方法についてのお問い合わせは、お客さま相談センターまで

ナビダイヤル TEL 0570-017-173

受付時間 平日 9:00 ~ 18:00 土・日・祝日 9:00 ~ 17:00(ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

-1-

安全のために守ってください！

シャワートイレを安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

用語の説明

- 警告** ... 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。
- 注意** ... 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

警告

- 指示実行** 施工説明書に従い、正しく施工する。
※感電・火災・ケガの原因になります。
※漏水し、室内浸水の原因になります。
- 禁止** 電源コードにキズを付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしない。
※電源コードが破損し、感電・火災の恐れがあります。
- 分解禁止** 分解や改造は絶対に行わない。
※感電・火災・ケガの原因になります。
- ぬれ手禁止** ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。
※感電の恐れがあります。
- アース接続** 電源プラグの抜き差しはプラグ本体を持って行う。
※コード部を持って抜き差しを行うとプラグやコードが破損し、感電や火災の恐れがあります。
- 水かけ禁止** 本体や電源プラグに水や洗剤をかけない。
※感電・火災の原因になります。
- 禁止** ●AC100V 以外では使用しない。
●タコ足配線はしない。
※感電・火災の原因になります。
- 指示実行** 電源プラグは根元まで十分差し込む。
※感電・火災の恐れがあります。
- 禁止** ガタついているコンセントやアースターミナル付接地極付以外のコンセントは使用しない。
※感電・火災の原因になります。
- アース接続** アース線はコンセントのアースターミナルへ確実に接続する。
※接続しなかったり、不適切な接続では、感電・火災の原因になります。
※アースの接続は、電気工事店にご相談ください。
- 水場使用禁止** バスルームなどの湿気の多い場所には設置しない。
※感電・火災の原因になります。
- 禁止** 水道水以外に接続しない。
※機械内部の腐食により感電・火災および皮膚の炎症の原因になります。

注意

- 指示実行** 製品を接続する前に、必ず配管中の異物・サビなどを洗い流す。
※製品内部を傷めて漏水し、室内浸水の原因になります。
- 指示実行** 止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行う。
※漏水し、室内浸水の原因になります。
- 指示実行** お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておく。
※凍結破損により漏水し、室内浸水の原因になります。
※凍結破損により火災の原因になります。
- 指示実行** 新築・改修工事後や、水道断水の復旧後は、必ず配管内の空気を抜く。
※配管内に空気が混入した状態で給水器具を使用すると、器具・配管の破損や故障の原因となり、けがをしたり水漏れによって建物、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

-2-

電源の確認

配線工事およびコンセントの設置は、下記に準じた工事を行ってください。配線工事は電気工事店にご依頼ください。

- コンセントは AC100V、定格消費電力(下記参照)に適したアースターミナル付接地極付コンセントを使用してください。
- 【KB22の場合 - 390W】
- 【KB23、KB21の場合 - 350W】

すでにアースターミナルのない接地極付コンセントや接地極付ではないコンセントが施設されている場合は、アースターミナル付接地極付コンセントに変更してください。また、ヒーター付便器や他の電化製品と併用する場合は、数に応じたコンセントを設置してください。

- 定格消費電力に適した配線を行ってください。
- 必ずアースターミナルは、D種接地工事に準じた工事を行ってください。
- アースターミナルには、確実にシャワートイレのアース線を接続してください。
- コンセントはコード類の届く範囲で、床面より高く水のかからない位置に設置してください。電源コードおよびアース線の長さは1200mmです。
※施工が完了するまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。故障する恐れがあります。

便器の確認

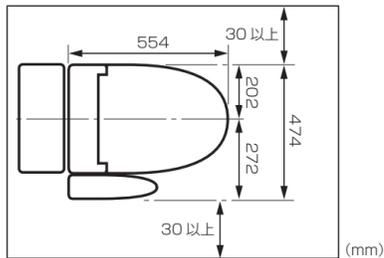
1. 便器の大きさ、隅付タンク式便器の取付条件はカタログなどにてご確認ください。
2. 本体給水ホース(同梱)の使用可能な条件
同梱の本体給水ホースは950mmですが、分岐金具から本体の給水ソケットまでの距離は800mm未満が適切です。
※800mm以上の距離がある場合は、別売の本体給水ホース CWA-27C(1350mm)または CWA-28C(2000mm)を手配してください。
3. タンク給水ホース(別売品)の使用可能な条件
止水栓とロータンクの間の距離によって使用できない場合があります。
●止水栓とロータンクの間の距離が150mm~300mmの場合: タンク給水ホースが使用できます。
8ページ[補足2]をご覧ください。
●止水栓とロータンクの間の距離が150mm~300mm以外の場合: タンク給水ホースが使用できません。
※既存のサプライ管を切断するか、長い場合は市販の蛇腹管をご使用ください。
7ページ[補足1]をご覧ください。

使用する水は？

- 給水は必ず水道水に接続してください。
中水道や工業用水、井戸水などを使用すると電気部品や機械部品の耐久性が低下して、事故の原因となります。
- 給水圧力は 0.06MPa {0.6kgf/cm²} ~ 0.75MPa {7.5kgf/cm²} が必要です。
0.06MPa {0.6kgf/cm²} 以下の場合、お求めの取扱店にご相談ください。
- 給水は便器の止水栓から取ってください。
フラッシュバルブ式便器へ取り付ける場合や給水を別に取り出す場合、便器の止水栓が中水道に接続している場合などは、お求めの取扱店にご相談ください。

必要なスペースは？

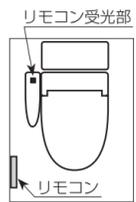
必要なトイレスペースは下図のとおりです。トイレ室内に十分なスペースがあることと、障害物がないことを確認してください。
製品に向かって右側・左側ともに30mm以上の空間を確保してください。30mm未満ですと本体スライド着脱ができなくなります。また、動作の妨げになる場合があります。



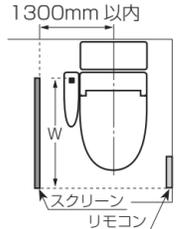
リモコンの取付位置は？

リモコンはできる限り、リモコン受光部側の壁(左側)に取り付けてください。

左側の壁にリモコンを取り付ける場合



右側の壁にリモコンを取り付ける場合

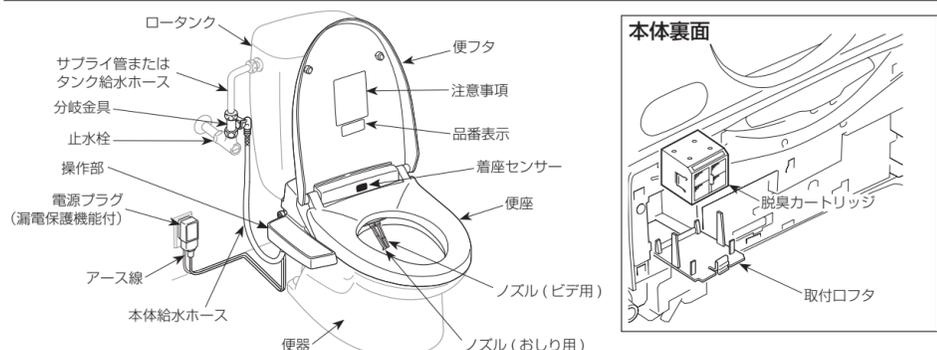


必要上、反対側の壁に取り付ける場合は、必ず取付位置で受信することを確認してから行ってください。また、リモコン受光部側の壁が洗面台などで便器から距離がある場合は、受信しない場合があります。このようなときは便器中心から1300mm以内に信号反射用のスクリーンを設置してください。スクリーンの寸法は高さ1100mm以上、幅はリモコン受光部からリモコン設置位置まで(W)を確保してください。(ただし、壁の仕上げ・色(特に黒っぽい色)などにより受信条件が悪くなる場合がありますので、ご注意ください。)

準備工具

- モンキーレンチ(26mm以上調節可のもの)またはスパナ類(23~26mm)
- プラスドライバー
- マイナスドライバー
- パイプカッター(サプライ管を切断する場合)

各部のなまえ



同梱部品の確認

□内の数字は施工手順の番号を示しています。

- フルオート便器洗浄付の場合**
- 1 フルオート便器洗浄ユニット
 - 2 分岐金具
パッキン(黒:厚さ2mm)
 - 3 本体着脱プレート
上面ボルト
 - 4 シャワートイレ本体
本体給水ホース(全長950mm)
クリップ
※脱臭カートリッジは、すでに商品に組み込まれています。
 - 6 便器洗浄用リモコン
KB23Q、KB22Q、KB21Qの場合
便器洗浄用リモコンが同梱されています。
※ホルダーはリモコン本体裏面に付いた状態ですが、スライドさせると外せます。
- ※1: 既存のサプライ管を切断した場合は使用します。

別売品

止水栓付分岐栓(CF-006)

- ※止水栓付を使用する場合は別途こちらを手配してください。
- ※シャワートイレ側の給水を止水できます。

固定ビス(H20-648)

- ※本体着脱プレートを本体に固定して、本体スライド着脱機能を無効にできます。便座昇降装置おしりフト(CWA-40)には同梱されています。

タンク給水ホース(全長350mm)(CWA-24C)

パッキン(青:外径18mm、内径12mm、厚さ2mm)50-15(1P)

- ※パッキン(青)とタンク給水ホースはセットではありません。それぞれを別途手配してください。

-3-

-4-

1 フルオート便器洗浄ユニットの取付け (フルオート便器洗浄付の場合)

1. フルオート便器洗浄ユニットに同梱されている専用の施工説明書にしたがって、フルオート便器洗浄ユニットを取り付ける。

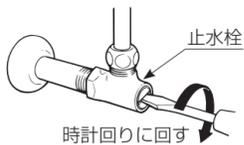
2 分岐金具の取付け [注意 2-1 参照]

1. 止水栓を閉める。

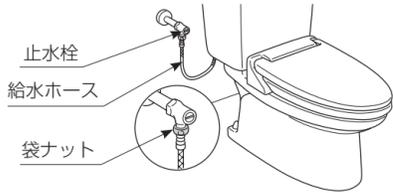
便器の止水栓をマイナスドライバーなどでいっばいに閉め、給水を止めます。
※ 止水栓は調節されているので、元の位置 (どのくらい回したか) を覚えておいてください。

2. 給水を確認する。

止水栓と便器 (ロータンク) の接続方式を確認してください。給水方式によって分岐金具の取付方法が異なります。
※ サプライ管を取り付ける場合は【補足 1】をご覧ください。



■ 止水栓とロータンクが給水ホースで接続されている場合 (袋ナット固定)



3. 給水ホースを取り外す。

※ このとき、少量の水がこぼれますので、ぞうきんなどを下に置いてください。



4. 分岐金具を止水栓に取り付ける。

(締付トルク 10 ~ 15N・m {100 ~ 150kgf・cm})

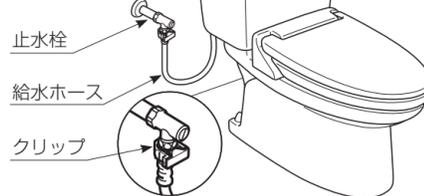


[注意 2-1]

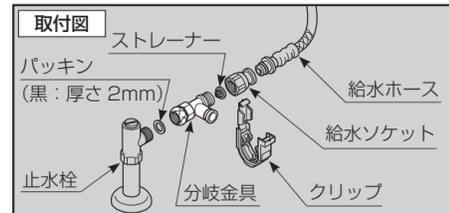
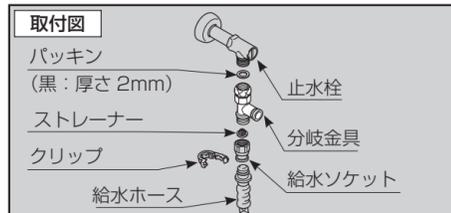
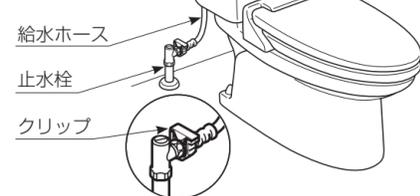
● 止水栓にすでに分岐栓や旧タイプの分岐金具が付いている場合、必ずそれらを外し、付属の分岐金具または別売の CF-006 (止水栓付) を使用する。
※ 漏水の原因になります。

■ 止水栓と便器 (ロータンク) が給水ホースで接続されている場合 (クリップ固定)

<壁給水の場合>



<床給水の場合>



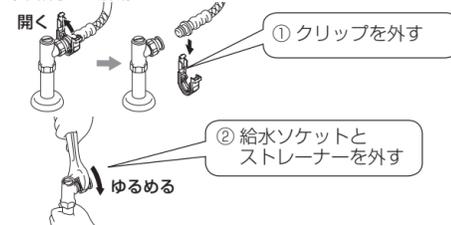
3. 給水ホースと給水ソケットを取り外す。 [参考 2-1 参照]

※ このとき、少量の水がこぼれますので、ぞうきんなどを下に置いてください。

<壁給水の場合>

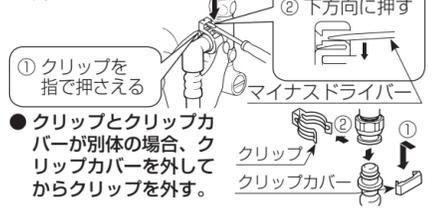


<床給水の場合>



[参考 2-1]

● クリップを外す際は、下方向に押すようにして外す。

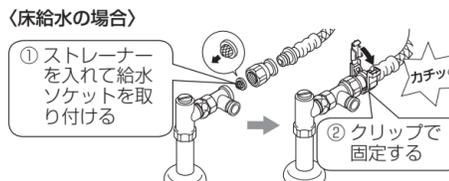
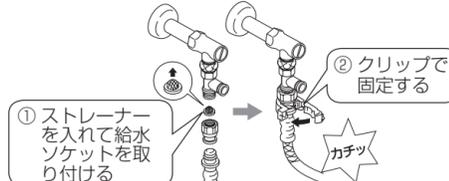


4. 分岐金具を止水栓に取り付ける。 (締付トルク 10 ~ 15N・m {100 ~ 150kgf・cm})



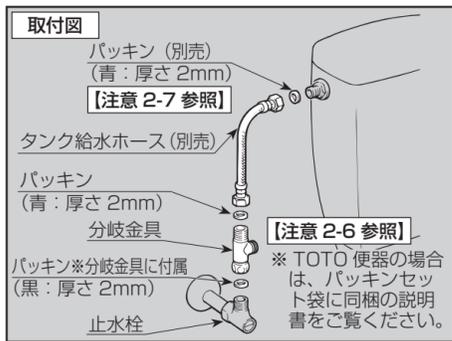
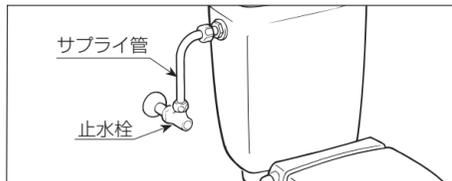
5. 給水ホースと給水ソケットを取り付ける。 [注意 2-2 参照] [注意 2-3 参照]

(締付トルク 10 ~ 15N・m {100 ~ 150kgf・cm})



※ 取付け後にクリップを回し、確実にハマっていることを確認してください。また、給水ホースを軽く引き、確実に接続されていることを確認してください。

■ 止水栓と便器 (タンク) がサプライ管で接続されている場合



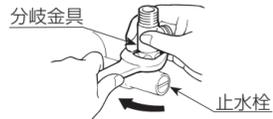
3. サプライ管を外す。 [注意 2-4 参照]

タンク側と止水栓側の袋ナットをゆるめてサプライ管を外します。
※ このとき、少量の水がこぼれますので、ぞうきんなどを下に置いてください。



4. 分岐金具を取り付ける。

パッキン (黒: 厚さ 2mm) を入れて分岐金具を止水栓に取り付けます。
(締付トルク 10 ~ 15N・m {100 ~ 150kgf・cm})

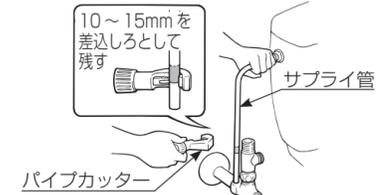


サプライ管を切断して取り付ける場合は、【補足 1】をご覧ください。

補足 1 サプライ管の取付け [注意 2-4 参照]

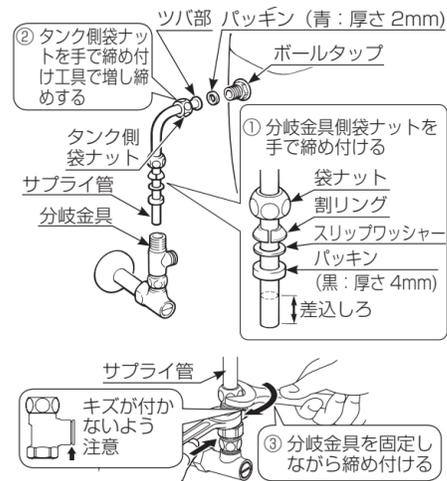
1. サプライ管 (分岐金具側) を切断する。 [注意 2-5 参照]

※ サプライ管の切断にはパイプカッターを使用してください。



2. サプライ管を取り付ける。 [注意 2-6 参照] [注意 2-7 参照]

[注意 2-8 参照]
(締付トルク 10 ~ 15N・m {100 ~ 150kgf・cm})

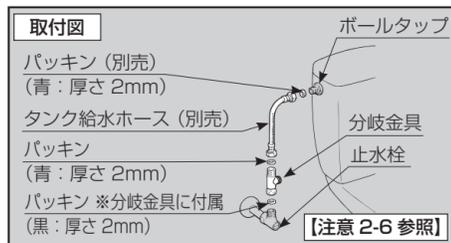


[注意 2-2]

● Oリングにキズを付けないように注意する。
※ Oリングが切れたりキズが付いたりすると漏水します。

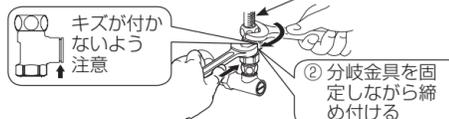
補足 2 タンク給水ホースの取付け

※ 【タンク給水ホースの使用可能な条件】を確認してください。(P.3)



1. タンク給水ホースを取り付ける。 [注意 2-7 参照] [注意 2-8 参照] [注意 2-9 参照]

※ 給水ホースがねじれないように注意してください。
(締付トルク 10 ~ 15N・m {100 ~ 150kgf・cm})

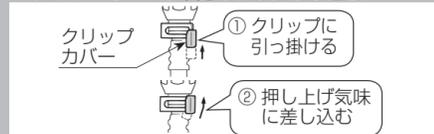


[注意 2-3]

● クリップは確実にハマ込む。



● クリップとクリップカバーが別体の場合、クリップカバーは下記のようにハマ込む。



[注意 2-4]

● 止水栓やサプライ管に無理な力をかけない。
※ 破損して漏水する恐れがあります。

[注意 2-5]

● サプライ管のツバ部は絶対に切断しない。
● サプライ管の切断は必ずパイプカッターを使用し、切断後は必ず水洗いなどで完全に切り粉を取り除いてから接続する。
● 止水栓が上下に 5mm 以上動く場合は、動かないように止水栓を固定する。
● 固定できない場合はタンク給水ホース (品番: CWA-24C) を使用する。
※ 漏水の原因になります。

[注意 2-6]

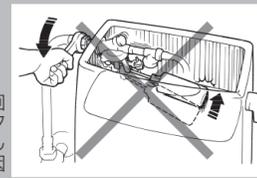
● 各部件の向きと順序を間違えないようにする。
※ 間違えると漏水します。
● 既存のサプライ管に割リングが付いていない場合は、タンク給水ホース (品番: CWA-24C) を使用する。
※ 漏水の原因になります。
● サプライ管の接続は確実に。
※ 漏水の原因になります。

[注意 2-7]

● 当社製ストレーナー付便器の場合は、別途手配のストレーナー付パッキン (品番: 26-10-2) に交換する。
このとき同梱のパッキン (青: 厚さ 2mm) は取り付けない。

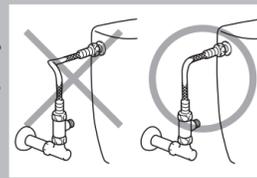
[注意 2-8]

● ボールタップが回転しないように固定しながら袋ナットを締め付ける。
※ ボールタップが回転すると浮玉がタンク側壁と干渉して止水不良の原因になります。



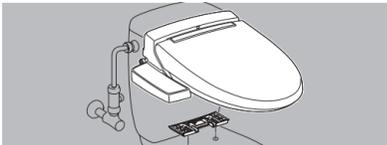
[注意 2-9]

● タンク給水ホースは鋭角に曲げない。
※ 破損して漏水の原因になります。
● パッキンは必ず付属品を使う。
※ 漏水の原因になります。



3 本体着脱プレートの取付け

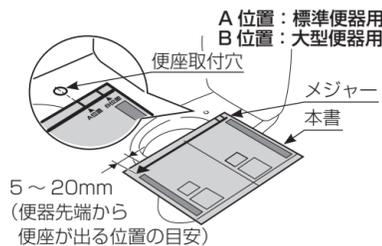
既存の便座を取り外す場合は、【補足3】をご覧ください。



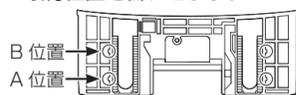
1. 本体着脱プレートの取付け位置を確認する。

※ 本説明書端のメジャーで便座取付穴から便器先端までを測り、本体着脱プレートの取付け位置を決定します。

- ① 便器が標準サイズの場合 **A 位置**、大型サイズの場合 **B 位置** を便座取付穴に合わせます。
- ② 矢印が便器先端から目安として 5～20mm 出る位置を選択します。

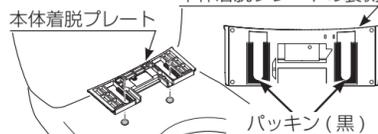


- ③ 便座取付穴と本体着脱プレートの取付け位置を合わせます。



本体着脱プレートの△マークを本説明書端のメジャー A 位置、B 位置に合わせます。

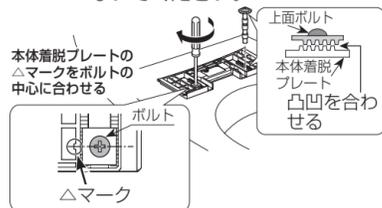
※ 本体着脱プレートはパッキン（黒）が付いている側を便器側に向け、本体着脱プレートの裏側



2. 本体着脱プレートを固定する。

【注意 3-1 参照】

- ① 上面ボルト2本を穴に差し込みます。
※ ゴム部に水をかけると挿入しやすくなります。
- ② ボルトが浮かないように、上から押しながらか、回らなくなるまでしっかりと締め付けます。この後さらに 1～2 回転程度回し、確実に締まっていることを確認してください。
(締付トルク 1.0～3.0N・m {10～30kgf・cm})
※ インパクトドライバーは使用しないでください。



【注意 3-1】

- ボルトの締め付けは偏りのないよう、左右交互に少しずつ行う。
※ 締め付けが緩いと便座がずれたり外れたりする原因になります。

4 シャワートイレ本体の取付け

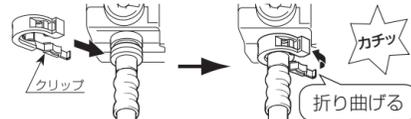
【注意 4-1 参照】 【注意 4-2 参照】
【注意 4-3 参照】 【参考 4-1 参照】

1. 本体給水ホースを本体側に取り付ける。



- ① 保護カバーを外します。
- ② 本体給水ホースを差し込みます。
※ 給水ソケットは回転しますが、これは構造上によるもので、故障ではありません。
【注意 4-4 参照】

- ③ クリップで固定します。【注意 2-2 参照】
【注意 2-3 参照】 【注意 4-5 参照】 【参考 2-1 参照】
※ クリップに方向性はありません。
※ 取付後にクリップを回し、確実にハマっていることを確認してください。また、給水ホースを軽く引き、確実に接続されていることを確認してください。



2. シャワートイレ本体を取り付ける。

- ① 本体を本体着脱プレートの手前に置きます。
- ② 本体着脱プレートの中心と本体背面部の凸部を合わせます。



- ③ 本体を本体着脱プレートが見えなくなるまで、奥にゆっくりスライドさせます。
※ 「カチッ」と音が鳴るまでしっかりと押し込んでください。
※ 本体を前後左右に軽く揺らして、確実に固定されていることを確認してください。
※ 本体のガタつきが気になる場合は、上面ボルトをしっかりと締め付け直してください。(③-2-②)
※ 本体着脱の構造上、ガタつきは完全にはありません。

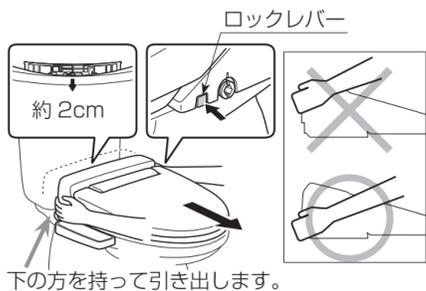


-9-

-10-

■ 本体の外し方

- ① 本体向かって右側にあるロックレバーを押しながら、約 2cm スライドさせます。
- ② ロックレバーから指を離して、さらにスライドさせます。



下の方を持って引き出します。

【注意 4-1】

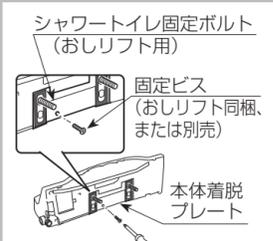
- 取付けの際は、必ず付属の部品を使用する。

【注意 4-2】

- 電源プラグに衝撃をかけたたり、便器内に水没させないように注意する。

【注意 4-3】

- 便座昇降装置おしりフト (CWA-40) とセットする場合、おしりフト説明書セットに同梱の固定ビスを本体着脱プレートのビス穴に取り付ける。



【注意 4-4】

- 本体給水ホースが折れ曲ってしまう場合は、分岐金具の向きを調節する。
※ 破損して漏水する恐れがあります。

【注意 4-5】

- クリップの先端が「カチッ」と音がするまで確実にハマ込む。
※ 漏水の原因になります。

【参考 4-1】

- ノズルが、便器のリム部に乗らないように取り付けてください。



【参考 4-2】

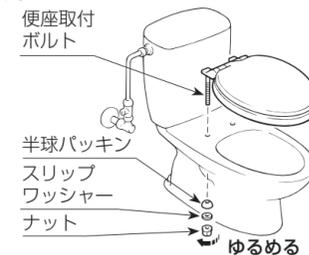
- 便器によっては、便座の取外し方が説明と異なる場合があります。
- 取り外した便座は、引越しのことを考え、保存しておくことをお勧めします。

補足 3

既存の便座の取外し 【参考 4-2 参照】

■ ボルト式の場合

1. 便器裏側の便座取付ボルトのナット、スリップワッシャー、半球パッキンを外す。
2. 便座を持ち上げて便座取付ボルトごと取り外す。



■ さや式の場合

1. 既存の便座を持ち上げて外す。
2. さやの中のボルトをゆるめて、ボルトを下に押し込む。
3. さや 2 本を便器から抜きとる。

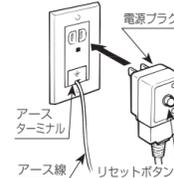


5 電源の接続

1. 電源プラグをコンセントに差し込む。

【注意 5-1 参照】

- ① アース線を接続します。
- ② 電源プラグを差し込みます。



2. 電源が入っていることを確認する。

操作部の【温水】と【便座】の表示ランプが点灯していることを確認してください。

- 確認後は温水タンクの空だき防止のため、速やかに電源プラグをコンセントから抜いてください。
(電源投入後 40 秒以内を目安にしてください。)



⚠ 警告



確実にアース線をアースターミナルに接続する。
※ 接続しなかったり、不適切な接続状態では、感電・火災の原因になります。
※ コンセントにアースターミナルがない場合は、電気工事店にご相談ください。

【注意 5-1】

- 操作部の【温水】と【便座】の表示ランプが点灯しない場合は、電源プラグのリセットボタンを押して、【温水】と【便座】の表示ランプが点灯することを確認する。
※ 電源プラグを差し直すときは、10 秒程度時間をあけてください。
- リセットボタンを押しても【温水】と【便座】の表示ランプが点灯しない(電源プラグの表示ランプが点灯する)場合は、200V が通電していないかを確認する。

6 リモコンの位置決め・取付け (リモコン付の場合のみ)

KB23Q、KB22Q、KB21Q 型…フルオート便器洗浄ユニットに同梱の施工説明書をご覧ください。

